



さいたま市

# さいたま 来ぶらり通信



さいたま市図書館報

2016年3月15日発行

Contents

わがまち Sai 発見…………… 1,2

本棚ぶらり

大人も楽しめる絵本の世界…………… 3

さいたま市のご当地ソングいろいろ／美園図書館が開館しました…………… 4

わがまち

はっけん

Sai 発

第16回

現代短歌新人賞が決まりました

## 大西民子さん 現代短歌新人賞

氷川神社の程近く、氷川の杜文化館の庭内に、戦後を代表する歌人・大西民子さんおおにしだみこの歌碑があります。

かたはらにおく幻の椅子一つあくがれて待つ夜もなし今は

この歌は、大西さんの第一歌集『まぼろしの椅子』の代表歌で、家庭を裏切った夫を待ち続ける妻の哀切を歌い上げ、多くの読者の共感を得た歌です。

今回は、大西さんの足跡をたどりながら、さいたま市とのかかわりをご紹介します。

### 大西さんとさいたま市

大西民子さんは、大正13年（1924）、盛岡市に生まれました。昭和24年（1949）にさいたま市（旧大宮市）に移り住み、以後、平成6年（1994）に69歳で他界するまで、この地で活躍されました。

大西さんがさいたま市に転居するきっかけとなったのは、新歌人集団の存在でした。戦後間もない昭和21年、加藤克巳氏かとうかつみ、近藤芳美氏こんどうよしみ、大野誠夫氏おののびらの歌人が、新歌人集団を立ち上げ、浦和駅前にあった埼玉県商工経済会館で発会式を行いました。当時、三氏は、ともにさいたま市（加藤氏は旧与野市、近藤氏・大野氏は旧浦和市）在住でした。大西さんは、新聞や雑誌でこうした活動を知り、転居を決意したのです。

大西さんは、昭和31年（1956）、第一歌集『まぼろしの椅子』を刊行。以後、『不文の掟』、『無数の耳』、『花溢れゐき』など、10冊の歌集を刊行しました。

これらの歌集は、高く評価され、「短歌研究賞」、



▲歌碑（氷川の杜文化館）  
表（上）と裏（右）

「遼空賞」ちやうくう、「詩歌文学館賞」などの賞を受賞しています。

一方、私生活は幸福とは言い難く、昭和22年（1947）に結婚し、翌年には男児を授かるも死産、その後、半年余り病床に臥しています。また、昭和21年（1946）に父が病死、昭和35年（1960）に母も他界、昭和39年（1964）には10年間別居していた夫と協議離婚。同居していた最愛の妹も昭和47年（1972）に急逝し、48歳で身寄りのすべてを失うこととなります。

こうした家族の死、離婚は、大西さんの歌に大きな影響を与えます。作品の随所に、「死と向き合

う特異な感性」ともいべき表現が見られ、やがてそれは、夢と幻想の世界、幽玄の世界へと昇華されていきます。

晩年の大西さんは、多くの新聞や雑誌の選者を務める傍ら、現代歌人協会理事、埼玉県歌人会副

## 大西さんと現代短歌新人賞



大西さんの遺稿、蔵書等約1万点と著作権が、平成8年(1996)、旧大宮市に寄贈されたことをきっかけに、(仮称)大宮文学館を整備する構想が浮上します。この構想は、その後消滅しますが、平成12年(2000)、旧大宮市が文学館の先行事業として「現代短歌新人賞」を創設。合併後も引き継がれ、平成28年(2016)には、第16回を開催するに至りました。

「現代短歌新人賞」は、歌壇に新風をもたらす歌人の発掘・支援を行うことを目的として、毎年、有識者へのアンケートで多くの推薦を受けた歌集、選考委員が推薦する歌集の中から、受賞作品を決定しています。

その表彰式では、毎回授賞とともに著名な歌人・詩人の方々に特別講演をお願いしています。昨年

会長などを歴任、平成4年(1992)11月には紫綬褒章を受章しています。

平成6年(1994)1月5日、自宅にて急逝。享年69歳。平成10年(1998)には遺歌集『光たばねて』が刊行されました。

の第15回では記念座談会「大西民子を語る」と題し、選考委員5名が大西さんの歌を読み解くとともに、逸話などを紹介されました。

相次ぐ不幸に屈することなく、それを文学に昇華させた大西さんの歌と生きざまは、没後20年以上たった今でも語り継がれ、さいたま市に息づいています。



▲大西民子さんイラスト (森田敏男/画)

※大西民子氏をはじめとするさいたま市ゆかりの文学者の資料を展示・紹介できるよう、大宮図書館で現在整理を進めています。

## 第16回 現代短歌新人賞受賞作が決まりました

さいたま市が主催する「現代短歌新人賞」は今年で16回目となります。平成27年12月6日の選考会で選ばれたのは、尾崎朗子さんの歌集『タイガーリリー』(ながらみ書房2015)です。

「尾崎朗子歌集『タイガーリリー』には作者の生の重み、深みが感じられ、時にユーモアを感じさせる作もたんにユーモアに終わらず、切実な想いがその奥に隠されており、安定した表現も評価し、贈賞を決めたのである。」

(選考委員講評、さいたま市ホームページより)



作品や選考過程についての記事が、雑誌『ミセス』(文化出版局)2016年3月号に掲載されています。『ミセス』は図書館でも所蔵していますので、ぜひご覧ください。

# 本棚 ぶらり

## 句会の世界へようこそ

～異色の句会「東京マッハ」にまつわる4冊～

平成23年、世界で初めて有料の公開句会ライブイベント「東京マッハ」が開催されました。かしこまったイメージだけではない、エキサイティングで知的なコミュニケーションゲームの側面を強く打ち出したこの句会は、現在も回を重ね、好評を博しています。今回は、そのレギュラーメンバー（堀本裕樹・千野帽子・長嶋有・米光一成）の著作をご紹介します。

俳人・堀本裕樹さんの『芸人と俳人』<sup>またよしなあき</sup>（又吉直樹との共著 集英社 2015）は、まだ芥川賞を受賞する前の又吉さんを生徒役に、2年間かけて俳句や句会の神髄を伝えた対談集です。文学的な感性にあふれる又吉さんですら、俳句のルールにとまどい、陳腐な句を作ってしまうかど恐れを抱きます。それを優しくときほぐして、俳句の楽しさ、奥深さへと導く堀本さんの語り口は誠実で丁寧です。いつの間にか読者も俳句の魅力に引き込まれていきます。

同じく堀本さんの『いるか句会へようこそ！ 恋の句を捧げる杏の物語』<sup>あん</sup>（駿河台出版社 2014）は、前代未聞の「句会小説」にして恋愛小説です。主人公の大学生・杏は「いるか句会」のイケメン参加者を目当てに、予備知識ゼロで句会に参加し始めます。句会や吟行を経て、杏の恋心はま



『芸人と俳人』

又吉直樹・堀本裕樹／著  
集英社（2015）

すます募りますが、俳句はスランプ状態に。句会ではまず、出席者全員の句を作者がわからないようにします。そして、各自がよいと思う句を「選句」し、最後に作者を明かして「選評」する習わしなのですが、最終章では選評中に思いがけないドラマが巻き起こり……。読者も杏と一緒に俳句に親しむことができる素敵な作品です。

千野帽子さんの『俳句いきなり入門』（NHK出版 2012）は、本業は俳人ではなく文筆家だから「横から目線」だと謙遜しつつ、普通の入門書では目にすることのないラディカルな筆致で読者を鼓舞します。

思わずクスッと吹き出してしまう、絶妙な省略が並ぶ句集『春のお辞儀』（ふらんす堂 2014）は、芥川賞作家にして俳人の長嶋有さんの作品。17字の奥に眠っているモノは何か、イメージーションのセンスが問われます。

人気パズルゲーム「ぶよぶよ」の作者で、ゲーム作家・ライターとして活躍する、米光一成さんもメンバーです。句会のゲーム性を象徴するメンバー構成と言えるでしょう。句会は日本語話者にだけ許された、深遠で歴史あるワードゲームと言えるのかもしれません。

大人も楽しめる



## 絵本の世界

第12回



### 『なにも もたない くまの王さま』

エリック・ファン・オストとエレ・ファン・リースハウト／文  
パウラ・ヘリッツェン／絵 <sup>のざかえつこ</sup> 野坂悦子／訳  
ソニー・マガジズ（2006）

立派なお城を飛び出し、町で暮らすことにしたくまの王さま。今日からは、お風呂に入るのもパジャマを着るのも、

自分でなんでもする生活が始まるのです。でもお妃さまや街のみんなは、そんな王さまの行動が理解できなくて……。

乗ってきた金ぴかの馬車は売ってしまい、召使もいない、大事な王冠まで大臣に譲ってしまうくまの王さまを、町の人たちは「なんにも持っていない」とばかにします。でも王さまは、「自分の好きなものがあれば、あとはなんにもいらんだよ」と声高らかに宣言します。そしてそんな王さまに付いていくことを決意したお妃さま。でも「あとはなんにもいらない」と言いながらも、部屋に入りきれないくらいのごい荷物をお城から持ってきたみたいですが……。

「大切なものはなんなのか」「心の豊かさとはなんなのか」を私たちに問いかけるこの絵本。大人ならきっと今の生活から逃げ出したいという気持ちを持ったことがあるはず。豊かさを極めたからこそたどりついた「大事なものの以外なんにもいらない」という王さまの思い切った行動は、ちょっと憧れるけど、実現するのはかなり難しい。子どもと比べて人生経験が豊富で、日々の生活に疲れている大人の方が、より共感できる絵本といえるでしょう。せめてこの本を読んで、王さまのような朗らかな笑顔になってください。

# さいたま市のご当地ソングいろいろ

図書館では、さいたま市に関する資料の収集を積極的に行っており、図書以外にもCDやカセットテープなど視聴覚資料を所蔵しています。

これらの資料には、市の祝い事の記念として作ら

れたり、地域のことを想って唄われたりした様々な曲が入っています。地域のお祭りや市の行事などで使用されている曲もあり、皆さんもどこかで耳にしたことがあるかもしれません。

各資料は貸し出しを行っていますので、ぜひご利用ください。

資料名(媒体)	収録曲
さいたま市の歌 希望のまち(CD)	「希望(ゆめ)のまち」(タケカワユキヒデ/唄)
浦和おどり[複製](CD・カセットテープ)	「浦和おどり」(都はるみ・大川栄策/歌)
わが街浦和(CD)	「中山道浦和宿」(さくら草五郎/歌)、「知っていますかあなたの住む街を」(さくら草五郎/歌)
うなぎ小唄(CD)	「うなぎ小唄」(岡崎裕美/歌)、「うなぎ小唄(やなせたかし/歌)」、「ヌラヌラソング」(岡崎裕美・やなせたかし/歌)、「なにもかも彩」(岡崎裕美/歌)、「なにもかも彩」(岡崎裕美・やなせたかし/歌)
大宮のソング集(CD)	「太陽の街・大宮」(真理ヨシコ・ポニージャックス/歌)、「大宮をどり」(三島一声・市丸/歌)、「大宮音頭」(原田直之/歌)、「大宮小唄(春・夏)」(小壽々/歌)、「大宮小唄(秋・冬)」(朝居丸子・大宮芸子連/歌)、「大宮市歌」(佐藤猛/歌)
大宮おどり(CD)	「大宮おどり」(小野田実/歌)
大宮音頭[複製](CD)	「大宮音頭」(原田直之/唄)
ありがとう!ふるさと“与野”(CD)	「与野市民歌」(藤山一郎/歌)、「マイ・タウン」(島頼子/歌)
与野ふるさと音頭(カセットテープ)	「与野ふるさと音頭」(大月みやこ/歌)
岩槻市民の歌/岩槻市民音頭(カセットテープ)	「岩槻市民の歌」(青木光一/歌)、「岩槻市民音頭」(大川栄策・わかばちどり/歌)



## 美園図書館 が開館しました

さいたま市の25館目の図書館として、平成28年1月4日に美園図書館がオープンしました。新年早々の開館ながら、初日の来館者数は1,921人、貸出点数は3,908点にのほりしました。

浦和美園駅周辺は、江戸時代には日光御成道が通り、今も大門には宿場の本陣・脇本陣の遺構が残るなど、歴史を感じさせてくれる地域です。

2001年に埼玉高速鉄道が開通すると、埼玉スタジアム2002の玄関口としてサッカーの試合のある日には多くの人でにぎわうようになり、ショッピングモールや大きなマンションができるなど、街の姿は大きく変わりました。美園地区はさいたま市の副都心として、人口の増加や街の発展が見込まれています。

美園図書館では小説や実用書、児童書を中心に取

りそろえ、大きな窓に面した児童書コーナーや閲覧席、靴を脱いで座って絵本を読むことができるおはなし室、調べものができるインターネット席を設けるなど、ご家族そろって来館していただける身近な図書館を目指しています。平日は夜の8時まで開館し、学校や仕事の帰りにもご利用いただけます。

埼玉スタジアム2002が近いこともあり、入口脇には浦和レッズの展示もあります。

近隣のみなさんはもちろん、サッカー観戦の際には、ぜひ美園図書館にお立ち寄りください。



▲入口脇の浦和レッズ展示



子どもの本のコーナー▶

### 編集：さいたままぶらり通信編集委員会 発行：さいたま市図書館

<http://www.lib.city.saitama.jp/> 携帯電話用 <http://www.lib.city.saitama.jp/m/> (下のQRコードを読み込んでください)

北浦和図書館 832-2321	三橋分館 625-4319	与野南図書館 855-3735	大久保東分館 853-7100
東浦和図書館 875-9977	春野図書館 687-8301	西分館 854-8636	北図書館 662-6111
大宮図書館 643-3701	大宮東図書館 688-1434	岩槻図書館 757-2523	宮原図書館 662-5401
桜木図書館 649-5871	七里図書館 682-3248	岩槻駅東口図書館 758-3200	武蔵浦和図書館 844-7210
大宮西部図書館 664-4946	片柳図書館 682-1222	岩槻東部図書館 756-6665	南浦和図書館 862-8568
馬宮図書館 625-8831	与野図書館 853-7816	桜図書館 858-9090	美園図書館 764-9610

事務局：中央図書館 浦和区東高砂町11-1 TEL 048-871-2100

★★編集後記★★ 今号では、第16回「現代短歌新人賞」の決定に合わせ、当事業に長く携わってきた教育委員会の森田敏男生涯学習部長の執筆により、大西民子さんを特集しました。 次回発行予定：8月15日(年3回発行)



もっと身近に、  
もっとしあわせに

